

『日本転倒予防学会誌』 投稿規程

1. 雑誌の名称は和文名「日本転倒予防学会誌」、英文名“Japanese Journal of Fall Prevention”とする。略誌名は和文名「日転倒予会誌」、英文名「Jpn J Fall Prev : JJFP」とする。冊子版 (ISSN2188-5702) とオンライン版 (ISSN2188-5710) の2つの形態で出版する。オンライン版は科学技術情報発信・流通総合システム (J-stage : <http://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>) にて公開される。第8巻より、冊子版は廃止し、オンライン版へ移行し、一般社団法人日本転倒予防学会のホームページに掲載される。
2. 本誌は、一般社団法人日本転倒予防学会が発刊する。
3. 本誌は、年に2回以上発行する。オンライン版へ移行した第8巻以降は、受理論文ごとにホームページに掲載し、毎年3月に通巻として再掲載する。
4. 本誌には、転倒予防に関わる保健、医療、福祉、工学、教育、スポーツ等の領域・分野の総説、論説、原著、報告等を掲載する。

論文の種類	内 容	最大文字数
総説	転倒予防に関する総括、文献解題 (システマティック・レビューやナラティブ・レビュー)	1 ページあたり、日本語 1,600 文字で 15 枚以内
原著	転倒予防に関して新しく開発した手法、発見した知見等の論文	1 ページあたり、日本語 1,600 文字で 15 枚以内
報告	転倒予防に関する論文、ケースレポート、フィールドレポート	1 ページあたり、日本語 1,600 文字で 9 枚以内
その他	転倒予防に関して参考となる特集、資料や書評、論文の紹介など	1 ページあたり、日本語 1,600 文字で 9 枚以内

ただし、「その他」の原稿は、原則として編集委員会の企画により執筆依頼をした論文とする。

5. 本誌への論文投稿は、一般社団法人日本転倒予防学会の会員に限り、行うことができる。ただし、第1著者は会員とするが、第2著者以降は会員の有無を問わない。第2著者以降の共著者には、必ず承諾 (署名) を得なければならない。
6. 投稿された論文は、専門領域に応じて選ばれた査読員による審査の後、原稿の採否を編集委員会が決定する。
7. 論文の執筆にあたっては、「執筆要項」を参照すること。
8. 論文は随時受け付ける。論文の受付の日付は、「一般社団法人日本転倒予防学会」事務局から、『日本転倒予防学会誌』編集委員会に送付した日とする。
9. 論文の受理の日付は、審査の後、掲載を決定した日とする。
10. 論文を投稿する場合は、「一般社団法人日本転倒予防学会」Web サイト (<http://www.tentouyobou.jp/senmonka/jjfp.html>) にある各種チェックリスト、投稿承諾書 (共著者) に必要事項を記入し、オリジナルでない図表の転載許諾書を添え、原稿等とあわせて、同じウェブサイト上の「投稿用フォーム」より、入力・送信してください。
問い合わせ先
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-4-10 飯田橋エルシスビル
TEL : 03-3261-6598 FAX : 03-3261-1988 E-mail さくら工芸社 : sakura@sakura-kougeisha.co.jp
阿部尚子 : naokoabedn@gmail.com
11. 著者校正は原則として1度行う。なお、掲載にあたり、編集者の責任で投稿規程に従って修正する場合がある。
12. 修正後再投稿の論文は1か月以内に再投稿すること。それを過ぎた場合は新規投稿として扱われる。
13. 投稿論文は、他誌に投稿中でない未発表のものに限る。また、法令及び研究・投稿倫理等を順守したものとする。
14. 本誌に掲載された論文の著作権は、本学会に帰属する。著者自身が自分の論文を全文または一部を複製・転載の形で非営利・教育研究目的に利用する場合はこれを妨げない。著者以外からの掲載論文の引用・転載は学会及び著者の許可を得ること。なお、その利用に際してはその著作物が本学会発行誌に掲載されたものであることを明記するとともに、事務局に報告しなければならない。
15. 本規程の改定は、必要に応じて編集委員会が行う。

2014年 4月 1日制定
2014年 6月 10日改定
2015年 3月 10日改定
2019年 10月 5日改定
2024年 3月 17日改定

1. ヒトを対象とした研究では、原則として所属機関の倫理審査委員会などの審査を受け、参加者の同意を取得した上で実施されたものでなければならない。動物を対象とした研究では、実験動物の管理及び利用に関して、所属機関等の動物実験指針に準拠して実施されたものでなければならない。以上の事項に該当する研究論文では、このことを方法の項に記載するものとする。
2. 臨床試験は、臨床試験登録公開制度システム (UMIN-CTR <http://www.umin.ac.jp/ctr/index-j.htm> など) に登録すること。前向きランダム化比較試験 (randomized controlled trial : RCT) では CONSORT2010 に準拠しなければならない (参考表を別途示す)。観察研究 (observational studies) においては、STROBE 声明チェックリストに原則として準拠して記載する (参考表を別途示す)。
3. 利益相反 (Conflict of Interest : COI) にかかる事項がある際には、日本医学会の「医学研究の COI マネージメントに関する規則」に準拠し、その内容 (実験薬の提供、資金提供など) 及び COI 自己申告書を添付する。該当しない場合には、その旨を論文の最後に記載すること。
4. 論文は、和文または英文とする。英文の場合には、必ずネイティブ・サイエンティストの校閲を受けてから投稿することとし、その証明書を論文に添付する。原稿は、A4 版 1 ページあたり、日本語 1,600 字 (図表は各々 0.5 枚と数える) を基本とする。和文は、A4 版用紙縦に横書きし、英文は、すべて A4 版用紙縦に、ダブルスペースでタイプする。投稿規程 4 も参照のこと。
5. 論文は、原則として MS Word ファイルとする。図表については、pdf に変換したファイルとする。
6. 投稿された論文は返却しない。
7. 文章は、新仮名づかい、句読点は、「。」(マル)と「,」(コンマ)とする。カッコ (「,」,「(」,[など) は、1 文字とする。
8. 図表の原図は、黒インクを使って明瞭に書く。縮小することが適当と考えられる図は、図内の数字または、文字を縮小率に応じて大きく書く。
9. 図表はすべて本文とは別紙とし、本文中に挿入すべき箇所を論文の欄外に朱書により、明瞭に指定する (図 1, 表 2 など)。
10. 印刷・製版に不適当と認められる図表は、書きかえ、または割愛を求めることがある。
11. 図表は原則として黒インクを使用とする。カラーの図表を用いる場合は、冊子体についてはその費用は著者負担とする。オンライン版は、カラーの図表及び動画が電子付録として無料で掲載が可能となる場合があるので編集委員会と投稿者と相談の上、決定する。
12. 原著・報告論文には、1,200 字以内の和文抄録と、200 ~ 300 語程度の英文抄録をつけ、5 つ以内のキーワード (和文と英文) を添える。論文受理後、英文抄録には、必ずネイティブ・サイエンティストの校閲を受け、その証明書を論文に添付する。総説またはその他の論文には、同じ言語の抄録をつけ、5 つ以内のキーワード (和文と英文) を添える。
13. 文献は引用したもののみとし、引用順に並べ、本文中の引用箇所には、必ず肩番号をつけ文章の最後に記載する。例えば、「・・・知られている¹⁾。」または、「・・・^{2) 4)}」「・・・¹⁾⁻⁵⁾」のようにする。なお、文献の数は、本文または図・表の説明に不可欠なものを 20 個以内とする。
14. 複数著者の場合は、1 名を記し、あとは「ほか」、英文では「et al.」とする。
15. 文献の書き方は以下のとおりとする。

A 雑誌等の定期刊行物の場合

日本語雑誌名は医中誌略誌名 (医学中央雑誌刊行会) に、国際雑誌名は <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/> (アメリカ国立医学図書館) のタイトル略記 (NLM Title Abbreviation) の所載に従う。ただし、両データベースに収録されていない場合は、雑誌のフルタイトルを表記する。

1. 雑誌の一論文

著者名. 論文名. 誌名. 巻 (号) : はじめのページ-終わりのページ, 出版年.

- 1) 上岡洋晴ほか. 高齢者の転倒予防のための運動療法. CLINICAL CALCIUM. 23 (5) : 719-729, 2013.
- 2) Yamada M. et al. Trail-walking exercise and fall risk factors in community-dwelling older adults : preliminary results of a randomized controlled trial. J Am Geriatr Soc. 58 (10) : 1946-1951, 2010.

2. 印刷中の論文

著者名. 論文名. 誌名. 巻 (号), 出版年, 掲載予定.

大高洋平ほか. 脳卒中後の大腿骨頸部骨折 : 退院後の在宅リハビリテーション-再転倒予防を目指して. Journal of Clinical Rehabilitation. 13 (4), 2004, 掲載予定. または、英文の場合、in press.

3. 特集の一記事

著者名. 論文名 (特集 :). 誌名. 巻 (号) : はじめのページ-終わりのページ, 出版年.

小原淳. 睡眠薬, 抗うつ薬, 抗不安薬による転倒・転落 (特集:いつもの処方・使い方でも危ない!薬で起こる急変はこうして防ぐ). エキスパートナース. 22 (13):60-64, 2006.

4. 会議報告

著者名, 論文名, 会議名, 誌名, 巻 (号): はじめのページ-終わりのページ, 出版年.

萩野浩ほか. 骨粗鬆症性骨折発生後の QOL 変化. 第 15 回 日本リハビリテーション医学会中国・四国地方会. リハビリテーション医学. 42 (8):578, 2005.

5. 新聞

見出し名, 新聞名, 出版年月日 (曜日) 面.

10月10日は転倒予防の日. 読売新聞. 2006年10月9日 (月) 朝刊 10面.

B 単行本の場合

1. 図書 1 冊

著者名, 書名, 出版者, 出版地, 発行年.

1) 武藤芳照編. 大人も知らないからだの本: 運動器のおはなし. 「運動器の 10 年」日本委員会, 東京, 2005.

2) Miyashita M, et al. Medicine and science in aquatic sports (Medicine and sport science ; v. 39). Karger, Tokyo, 1994.

2. 図書の一部

著者名, 論文名, 編者名, 書名, 版表示, 出版者, 出版地, 出版年, p はじめのページ-終わりのページ. (シリーズ名; シリーズ番号)

1) 岡田真平ほか. 11 ボール運動あそび. 武藤芳照ほか編, 転倒予防教室. 第 2 版. 日本医事新報社, 東京, 1999, p160-161.

3. シリーズ全体の場合

著者名, 書名, 出版地, 出版者, 出版年.

1) 内閣府編. 障害者白書. 東京, 国立印刷局, 1994 -.

C 電子媒体の場合

1. 電子雑誌

著者名, 論文名, 誌名, 巻 (号), 出版年, 入手先< URL >, 入手日時.

1) 河野徳良. アスレティックトレーニングにおける研究テーマの変遷. 体力科学. 54 (1), 2005.

入手先<http://www.jstage.jst.go.jp/article/jspfsm/54/1/55/_pdf/-char/ja/>, 参照 2007-2-13.

2) Sanchez-Garcia S, et al. Anthropometric measures and nutritional status in a healthy elderly population. BMC Public Health. 7 (2), 2007, available from <<http://www.biomedcentral.com/1471-2458/7/2>>, Accessed 2006-12-23.

D 総括研究報告の場合

著者名 (代表のみ), 分担部分のタイトル, 代表研究者: 名前「報告書のタイトル」, 省庁・民間財団の補助金・研究助成名, 年度報告書の種類 (NO: あれば), ページ, 年

1) 上岡洋晴. 水中運動の非ランダム化比較試験のシステマティック・レビュー: エビデンスの包括整理と質評価, 代表研究者: 武藤芳照「水の摂取・利用が健康障害の予防及び健康増進効果に及ぼす影響について」, 厚生労働科学研究費補助金健康安全・危機管理対策総合研究事業, 平成 21 年度総括・分担研究報告書 (H20-健危-一般-007), pp.37-56, 2010.

16. 本規程の改廃は, 必要に応じて編集委員会が行う。

2014年 4月 1日制定

2014年 6月 10日改定

2015年 3月 10日改定

2016年 6月 10日改定

2017年 6月 10日改定

2019年 6月 10日改定

2024年 3月 17日改定

参考

表1 ランダム化比較試験を報告する際に含まれるべき情報の CONSORT 2010 チェックリスト (訳: 津谷喜一郎, 元雄良治, 中山健夫)

表/トピック (Section/Topic)	項目番号 (Item No)	チェックリスト項目 (Checklist Item)	報告ページ・行 (Report page and line)
タイトル・抄録 (Title and Abstract)	1a 1b	タイトルにランダム化比較試験であることを記載。 試験デザイン (trial design), 方法 (method), 結果 (result), 結論 (conclusion) の構造化抄録。	
はじめに (Introduction) 背景・目的 (Background and Objective)	2a 2b	科学的背景と論拠 (rationale) の説明。 特定の目的または仮説 (hypothesis)。	
方法 (Method)			
試験デザイン (Trial Design)	3a 3b	試験デザインの記述 (並行群間, 要因分析など), 割付け比を含む。 試験開始後の方法上の重要な変更 (適格基準 eligibility criteria など) とその理由。	
参加者 (Participant)	4a 4b	参加者の適格基準 (eligibility criteria)。 データが収集されたセッティング (setting) と場所。	
介入 (Intervention) アウトカム (Outcome)	5 6a 6b	再現可能となるような詳細な各群の介入。実際にいつどのように実施されたかを含む。 事前に特定され明確に定義された主要・副次的アウトカム評価項目。いつどのように評価されたかを含む。 試験開始後のアウトカムの変更とその理由。	
症例数 (Sample size)	7a 7b	どのように目標症例数が決められたか。 あてはまる場合には, 中間解析と中止基準の説明。	
ランダム化 (Randomization) 順番の作成 (Sequence generation) 割振りの隠蔽機構 (Allocation concealment mechanism) 実施 (Implementation) ブラインディング (Blinding)	8a 8b 9 10 11a 11b	割振り (allocation) 順番を作成 (generate) した方法。 割振りのタイプ: 制限の詳細 (ブロック化, ブロックサイズなど)。 ランダム割振り順番の実施に用いられた機構 (番号付き容器など), 各群の割付けが終了するまで割振り順番が隠蔽されていたかどうかの記述。 誰が割振り順番を作成したか, 誰が参加者を組入れ (enrollment) たか, 誰が参加者を各群に割付けた (assign) か。 ブラインド化されていた場合, 介入に割付け後, 誰がどのようにブラインド化されていたか (参加者, 介入実施者, アウトカムの評価者など)。 関連する場合, 介入の類似性の記述。	
統計学的手法 (Statistical method)	12a 12b	主要・副次的アウトカムの群間比較に用いられた統計学的手法。 サブグループ解析や調整解析のような追加的解析の手法。	
結果 (Results)			
参加者の流れ (Participant flow) (フローチャートを強く推奨)	13a 13b	各群について, ランダム割付けされた人数, 意図された治療を受けた人数, 主要アウトカムの解析に用いられた人数の記述。 各群について, 追跡不能例とランダム化後の除外例を理由とともに記述。	
募集 (Recruitment)	14a 14b	参加者の募集期間と追跡期間を特定する日付。 試験が終了または中止した理由。	
ベースライン・データ (Baseline data)	15	各群のベースラインにおける人口統計学的 (demographic), 臨床的な特性を示す表。	
解析された人数 (Number analyzed)	16	各群について, 各解析における参加者数 (分母), 解析が元の割付け群によるものであるか。	
アウトカムと推定 (Outcome and estimation)	17a 17b	主要・副次的アウトカムのそれぞれについて, 各群の結果, 介入のエフェクト・サイズの推定とその精度 (95%信頼区間など)。 2項アウトカムについては, 絶対エフェクト・サイズと相対エフェクト・サイズの両方を記載することが推奨される。	
補助的解析 (Ancillary analysis)	18	サブグループ解析や調整解析を含む, 実施した他の解析の結果。事前に特定された解析と探索的解析を区別する。	
害 (Harm)	19	各群のすべての重要な害 (harm) または意図しない効果 (詳細は「ランダム化試験における害のよりよい報告: CONSORT声明の拡張」を参照)。	
考察 (Discussion)			
限界 (Limitation)	20	試験の限界, 可能性のあるバイアスや精度低下の原因, 関連する場合は解析の多重性の原因を記載。	
一般化可能 (Generalisability) 解釈 (Interpretation)	21 22	試験結果の一般化可能性 (外的妥当性, 適用性)。 結果の解釈, 有益性と有害性のバランス, 他の関連するエビデンス。	
その他の情報 (Other information)			
登録 (Registration)	23	登録番号と試験登録名。	
プロトコル (Protocol)	24	可能であれば, 完全なプロトコルの入手方法。	
資金提供者 (Funding)	25	資金提供者と他の支援者 (薬剤の供給者など), 資金提供者の役割。	

※本表は, Schulz KF, Altman DG, Moher D; CONSORT Group. CONSORT 2010 statement: updated guidelines for reporting parallel group randomised trials. BMJ 2010 ; 340 : c332. doi : 10.1136/bmj. c332 の日本語訳である。International Committee of Medical Journal Editors (ICMJE) もこのチェックリストの活用を推奨している。この訳の詳細は, 津谷喜一郎, 元雄良治, 中山健夫. CONSORT 2010 声明: ランダム化並行群間比較試験報告のための最新版ガイドライン。薬理と治療 2010 ; 38 : 939-947. を参照されたい。なお, ライフサイエンス出版から本誌への転載の許可を得た。

表2 STROBE 声明：「コホート研究」の報告において記載すべき項目のチェックリスト (訳：上岡洋晴, 中山健夫, 津谷喜一郎)

表／トピック (Section/Topic)	項目番号 (Item No)	チェックリスト項目 (Checklist Item)	報告ページ・行 (Report page and line)
タイトル・抄録 (Title and Abstract)	1a	タイトルまたは抄録のなかで、試験デザインを一般的に用いられる用語で明示する。	
	1b	抄録では、研究で行われたことと明らかにされたことについて、十分な情報を含み、かつバランスのよい要約を記載する。	
はじめに (Introduction) 背景 (Background) / 論拠 (Rationale) 目的 (Objective)	2	研究の科学的な背景と論拠を説明する。	
	3	特定の仮説を含む目的を明記する。	
方法 (Methods) 研究デザイン (Study design) セッティング (Setting) 参加者 (Participant) 変数 (Variable) データ源 (Data source) / 測定方法 (Measurement) バイアス (Bias) 研究サイズ (Study size) 量的変数 (Quantitative variable) 統計・分析方法 (Statistical method)	4	研究デザインの重要な要素を論文のはじめの (early) 部分で示す。	
	5	セッティング, 実施場所のほか, 基準となる日付については, 登録, 曝露 (exposure), 追跡, データ収集の期間を含めて明記する。	
	6a	適格基準 (eligibility criteria), 参加者の母集団 (sources), 選定方法を明記する。追跡の方法についても記述する。	
	6b	マッチング研究 (matched study) の場合, マッチングの基準, 曝露群 (exposed) と非曝露群 (unexposed) の各人数を記載する。	
	7	すべてのアウトカム, 曝露, 予測因子 (predictor), 潜在的交絡因子 (potential confounder), 潜在的な効果修飾因子 (effect modifier) を明確に定義する。該当する場合は, 診断方法を示す。	
	8*	関連する各因子に対して, データ源, 測定・評価方法の詳細を示す。二つ以上の群がある場合は, 測定方法の比較可能性 (comparability) を明記する。	
	9	潜在的なバイアス源に対応するためにとられた措置があればすべて示す。	
	10	研究サイズ (訳者注: 観察対象者数) がどのように算出されたかを説明する。	
	11	量的変数の分析方法を説明する。該当する場合は, どのグルーピング (grouping) がなぜ選ばれたかを記載する。	
	12a	交絡因子の調整に用いた方法を含め, すべての統計学的方法を示す。	
	12b	サブグループと相互作用 (interaction) の検討に用いたすべての方法を示す。	
	12c	欠損データ (missing data) をどのように扱ったかを説明する。	
	12d	該当する場合は, 脱落例 (loss to follow-up) をどのように扱ったかを説明する。	
	12e	あらゆる感度分析 (sensitivity analysis) の方法を示す。	
	結果 (Result) 参加者 (Participant) 記述的データ (Descriptive data) アウトカムデータ (Outcome data) おもな結果 (Main result) 他の解析 (Other analysis)	13*a	研究の各段階における人数を示す (例: 潜在的な適格 (eligible) 者数, 適格性が調査された数, 適格と確認された数, 研究に組み入れられた数, フォローアップを完了した数, 分析された数)。
13*b		各段階での非参加者の理由を示す。	
13*c		フローチャートによる記載を考慮する。	
14*a		参加者の特徴 (例: 人口統計学的, 臨床的, 社会的特徴) と曝露や潜在的交絡因子の情報を示す。	
14*b		それぞれの変数について, データが欠損した参加者数を記載する。	
14*c		コホート研究: 追跡期間を平均および合計で要約する。	
15*		アウトカム事象の発生数や集約尺度 (summary measure) の数値を経時的に示す。	
16a		調整前 (unadjust) の推定値と, 該当する場合は交絡因子での調整後の推定値, そしてそれらの精度 (例: 95%信頼区間) を記述する。どの交絡因子が, なぜ調整されたかを明確にする。	
16b		連続変数 (continuous variable) がカテゴリー化されているときは, カテゴリー境界 (category bordary) を報告する。	
16c		意味のある (relevant) 場合は, 相対リスク (relative risk) を, 意味を持つ期間の絶対リスク (absolute risk) に換算することを考慮する。	
17	その他に行われたすべての分析 (例: サブグループと相互作用の解析や感度分析) の結果を報告する。		
考察 (Discussion) 鍵となる結果 (Key result) 限界 (Limitation) 解釈 (Interpretation) 一般化可能性 (Generalisability)	18	研究目的に関しての鍵となる結果を要約する。	
	19	潜在的なバイアスや精度の問題を考慮して, 研究の限界を議論する。潜在的バイアスの方向性と大きさを議論する。	
	20	目的, 限界, 解析の多重性 (multiplicity), 同様の研究で得られた結果やその他の関連するエビデンスを考慮し, 慎重で総合的な結果の解釈を記載する。	
	21	研究結果の一般化可能性 (外的妥当性 (external validity)) を議論する。	
その他の情報 (Other information) 研究の財源 (Funding)	22	研究の資金源, 本研究における資金提供者 (funder) の役割を示す。該当する場合には, 現在の研究の元となる研究 (original study) についても同様に示す。	

*曝露群と非曝露群に分けて記述する。

本表は, <http://www.strobe-statement.org/>に公開された, Erik von Elm, Douglas G Altman, Matthias Egger, et al. The Strengthening the Reporting of Observational Studies in Epidemiology (STROBE) statement: guidelines for reporting observational studies の日本語訳である。International Committee of Medical Journal Editors (ICMJE) もこのチェックリストの活用を推奨している。この訳の詳細は, 上岡洋晴, 中山健夫, 津谷喜一郎. EQUATOR Network から得られる質の高い研究報告のための国際ルール③: STROBE: 疫学における観察研究報告のためのルール。薬理と治療 2014; 42: s109-s117. を参照されたい。なお, ライフサイエンス出版から本誌への転載の許可を得た。

表3 STROBE 声明：「ケース・コントロール研究」の報告において記載すべき項目のチェックリスト

(訳：上岡洋晴, 中山健夫, 津谷喜一郎)

表／トピック (Section/Topic)	項目番号 (Item No)	チェックリスト項目 (Checklist Item)	報告ページ・行 (Report page and line)
タイトル・抄録 (Title and Abstract)	1a	タイトルまたは抄録のなかで、試験デザインを一般的に用いられる用語で明示する。	
	1b	抄録では、研究で行われたことと明らかにされたことについて、十分な情報を含み、かつバランスのよい要約を記載する。	
はじめに (Introduction)			
背景 (Background) / 論拠 (Rationale)	2	研究の科学的な背景と論拠を説明する。	
目的 (Objective)	3	特定の仮説を含む目的を明記する。	
方法 (Method)			
研究デザイン (Study design)	4	研究デザインの重要な要素を論文のはじめの (early) 部分で示す。	
セッティング (Setting)	5	セッティング、実施場所のほか、基準となる日付については、登録、曝露 (exposure)、追跡、データ収集の期間を含めて明記する。	
参加者 (Participant)	6a	適格基準、参加者の母集団、ケース (case) の確定方法とコントロール (control) の選択方法を示す。ケースとコントロールの選択における論拠を示す。	
	6b	マッチング研究 (matched study) の場合、マッチングの基準、ケースあたりのコントロールの人数を記載する。	
変数 (Variable)	7	すべてのアウトカム、曝露、予測因子 (predictor)、潜在的交絡因子 (potential confounder)、潜在的な効果修飾因子 (effect modifier) を明確に定義する。該当する場合は、診断方法を示す。	
	8*	関連する各因子に対して、データ源、測定・評価方法の詳細を示す。二つ以上の群がある場合は、測定方法の比較可能性 (comparability) を明記する。	
データ源 (Data source) / 測定方法 (Measurement)	9	潜在的なバイアス源に対応するためにとられた措置があればすべて示す。	
バイアス (Bias)	10	研究サイズ (訳者注：観察対象者数) がどのように算出されたかを説明する。	
研究サイズ (Study size) 量的変数 (Quantitative variable)	11	量的変数の分析方法を説明する。該当する場合は、どのグルーピング (grouping) がなぜ選ばれたかを記載する。	
統計・分析方法 (Statistical method)	12a	交絡因子の調整に用いた方法を含め、すべての統計学的方法を示す。	
	12b	サブグループと相互作用 (interaction) の検討に用いたすべての方法を示す。	
	12c	欠損データ (missing data) をどのように扱ったかを説明する。	
	12d	該当する場合は、ケースとコントロールのマッチングをどのように行ったかを説明する。	
	12e	あらゆる感度分析 (sensitivity analysis) の方法を示す。	
結果 (Result)			
参加者 (Participant)	13*a	研究の各段階における人数を示す (例：潜在的な適格 (eligible) 者数、適格性が調査された数、適格と確認された数、研究に組入れられた数、フォローアップを完了した数、分析された数)。	
	13*b	各段階での非参加者の理由を示す。	
	13*c	フローチャートによる記載を考慮する。	
記述的データ (Descriptive data)	14*a	参加者の特徴 (例：人口統計学的、臨床的、社会的特徴) と曝露や潜在的交絡因子の情報を示す。	
	14*b	それぞれの変数について、データが欠損した参加者数を記載する。	
アウトカムデータ (Outcome data)	15*	各曝露カテゴリー内の数、または曝露の集約尺度を示す。	
おもな結果 (Main result)	16a	調整前 (unadjust) の推定値と、該当する場合は交絡因子での調整後の推定値、そしてそれらの精度 (例：95%信頼区間) を記述する。	
	16b	連続変数 (continuous variable) がカテゴリー化されているときは、カテゴリー境界 (category boundary) を報告する。	
	16c	意味のある (relevant) 場合は、相対リスク (relative risk) を、意味を持つ期間の絶対リスク (absolute risk) に換算することを考慮する。	
他の解析 (Other analysis)	17	その他に行われたすべての分析 (例：サブグループと相互作用の解析や感度分析) の結果を報告する。	
考察 (Discussion)			
鍵となる結果 (Key result)	18	研究目的に関しての鍵となる結果を要約する。	
限界 (Limitation)	19	潜在的なバイアスや精度の問題を考慮して、研究の限界を議論する。潜在的バイアスの方向性と大きさを議論する。	
解釈 (Interpretation)	20	目的、限界、解析の多重性 (multiplicity)、同様の研究で得られた結果やその他の関連するエビデンスを考慮し、慎重で総合的な結果の解釈を記載する。	
一般化可能性 (Generalisability)	21	研究結果の一般化可能性 (外的妥当性 (external validity)) を議論する。	
その他の情報 (Other information)			
研究の財源 (Funding)	22	研究の資金源、本研究における資金提供者 (funder) の役割を示す。該当する場合には、現在の研究の元となる研究 (original study) についても同様に示す。	

*ケースとコントロールに分けて記述する。

本表は、<http://www.strobe-statement.org/>に公開された、Erik von Elm, Douglas G Altman, Matthias Egger, et al. The Strengthening of Reporting of Observational Studies in Epidemiology (STROBE) statement: guidelines for reporting observational studies の日本語訳である。International Committee of Medical Journal Editors (ICMJE) もこのチェックリストの活用を推奨している。この訳の詳細は、上岡洋晴, 中山健夫, 津谷喜一郎. EQUATOR Network から得られる質の高い研究報告のための国際ルール③: STROBE: 疫学における観察研究報告のためのルール. 薬理と治療 2014; 42: s109-s117. を参照されたい。なお、ライフサイエンス出版から本誌への転載の許可を得た。

表4 STROBE 声明：「横断研究」の報告において記載すべき項目のチェックリスト（訳：上岡洋晴，中山健夫，津谷喜一郎）

表／トピック (Section/Topic)	項目番号 (Item No)	チェックリスト項目 (Checklist Item)	報告ページ・行 (Report page and line)
タイトル・抄録 (Title and Abstract)	1a	タイトルまたは抄録のなかで、試験デザインを一般的に用いられる用語で明示する。	
	1b	抄録では、研究で行われたことと明らかにされたことについて、十分な情報を含み、かつバランスのよい要約を記載する。	
はじめに (Introduction) 背景 (Background) / 論拠 (Rationale) 目的 (Objective)	2	研究の科学的な背景と論拠を説明する。	
	3	特定の仮説を含む目的を明記する。	
方法 (Method)			
研究デザイン (Study design) セッティング (Setting)	4	研究デザインの重要な要素を論文のはじめの (early) 部分で示す。	
	5	セッティング、実施場所のほか、基準となる日付については、登録、曝露 (exposure)、追跡、データ収集の期間を含めて明記する。	
参加者 (Participant) 変数 (Variable)	6	適格基準、参加者の母集団、選択方法を示す。	
	7	すべてのアウトカム、曝露、予測因子 (predictor)、潜在的交絡因子 (potential confounder)、潜在的な効果修飾因子 (effect modifier) を明確に定義する。該当する場合は、診断方法を示す。	
データ源 (Data source) / 測定方法 (Measurement) バイアス (Bias)	8*	関連する各因子に対して、データ源、測定・評価方法の詳細を示す。二つ以上の群がある場合は、測定方法の比較可能性 (comparability) を明記する。	
	9	潜在的なバイアス源に対応するためにとられた措置があればすべて示す。	
研究サイズ (Study size) 量的変数 (Quantitative variable)	10	研究サイズ (訳者注：観察対象者数) がどのように算出されたかを説明する。	
	11	量的変数の分析方法を説明する。該当する場合は、どのグルーピング (grouping) がなぜ選ばれたかを記載する。	
統計・分析方法 (Statistical method)	12a	交絡因子の調整に用いた方法を含め、すべての統計学的方法を示す。	
	12b	サブグループと相互作用 (interaction) の検討に用いたすべての方法を示す。	
	12c	欠損データ (missing data) をどのように扱ったかを説明する。	
	12d	該当する場合は、サンプリング方式 (sampling strategy) を考慮した分析法について記述する。	
	12e	あらゆる感度分析 (sensitivity analysis) の方法を示す。	
結果 (Result)			
参加者 (Participant)	13*a	研究の各段階における人数を示す (例：潜在的な適格 (eligible) 者数、適格性が調査された数、適格と確認された数、研究に組入れられた数、フォローアップを完了した数、分析された数)。	
	13*b	各段階での非参加者の理由を示す。	
	13*c	フローチャートによる記載を考慮する。	
記述的データ (Descriptive data)	14*a	参加者の特徴 (例：人口統計学的、臨床的、社会的特徴) と曝露や潜在的交絡因子の情報を示す。	
	14*b	それぞれの変数について、データが欠損した参加者数を記載する。	
アウトカムデータ (Outcome data)	15*	アウトカム事象の発生数または集約尺度を示す。	
おもな結果 (Main result)	16a	調整前 (unadjust) の推定値と、該当する場合は交絡因子での調整後の推定値、そしてそれらの精度 (例：95%信頼区間) を記述する。どの交絡因子が、なぜ調整されたかを明確にする。	
	16b	連続変数 (continuous variable) がカテゴリー化されているときは、カテゴリー境界 (category bordary) を報告する。	
	16c	意味のある (relevant) 場合は、相対リスク (relative risk) を、意味を持つ期間の絶対リスク (absolute risk) に換算することを考慮する。	
他の解析 (Other analysis)	17	その他に行われたすべての分析 (例：サブグループと相互作用の解析や感度分析) の結果を報告する。	
考察 (Discussion)			
鍵となる結果 (Key result) 限界 (Limitation)	18	研究目的に關しての鍵となる結果を要約する。	
	19	潜在的なバイアスや精度の問題を考慮して、研究の限界を議論する。潜在的バイアスの方向性と大きさを議論する。	
解釈 (Interpretation)	20	目的、限界、解析の多重性 (multiplicity)、同様の研究で得られた結果やその他の関連するエビデンスを考慮し、慎重で総合的な結果の解釈を記載する。	
一般化可能性 (Generalisability)	21	研究結果の一般化可能性 (外的妥当性 (external validity)) を議論する。	
その他の情報 (Other information)			
研究の財源 (Funding)	22	研究の資金源、本研究における資金提供者 (funder) の役割を示す。該当する場合には、現在の研究の元となる研究 (original study) についても同様に示す。	

*曝露群と非曝露群に分けて記述する。

本表は、<http://www.strobe-statement.org/>に公開された、Erik von Elm, Douglas G Altman, Matthias Egger, et al. The Strengthening the Reporting of Observational Studies in Epidemiology (STROBE) statement : guidelines for reporting observational studies の日本語訳である。International Committee of Medical Journal Editors (ICMJE) もこのチェックリストの活用を推奨している。この訳の詳細は、上岡洋晴, 中山健夫, 津谷喜一郎. EQUATOR Network から得られる質の高い研究報告のための国際ルール③: STROBE : 疫学における観察研究報告のためのルール. 薬理と治療 2014 ; 42 : s109-s117. を参照されたい。なお、ライフサイエンス出版から本誌への転載の許可を得た。